

なんたん 社協だより

2009.2

第5号

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり



**園部小学校3年生の福祉体験
～親子で手話学習～**

目次

平成 20 年度赤い羽根共同募金運動（中間報告）	2
平成 20 年度歳末たすけあい募金運動	3
福祉でまちづくり事業・家族介護者交流事業 等	4
第 2 回南丹市ボランティア交流会・ボランティア養成講座	5
第 3 回家族介護者教室・「介護者の会」が発足	6
各支所の取り組み	7～8
広げよう！つなげよう！子育ての輪	9
京都府社会福祉協議会表彰	10
寄稿	11
地域福祉活動計画作成中・善意のご寄付・編集後記	12



この広報誌は皆様からの赤い羽根共同募金の配分金によってつくられています。

「第2回南丹市ボランティア交流会」が開催されました。

(12/13 於:遊youひよし)

「上胡麻銭太鼓愛好会」のみなさんによるオープニングの銭太鼓の演奏、八木町のレクリエーションボランティア「ながよし」さんによる楽しいレクリエーションで、会場は一気に和やかな雰囲気になりました。

講師の飯本雅子さんは、「ボランティア活動のきっかけは「取材」でした。ハンセン病患者の方々とのかがわりや、障がいのある方との交流の中から、さまざまな社会の中の課題や、人のおもいへの気づきがあり、気がつけばとても長い繋がりとなり生活の一部となっていました。(講演内容より)「きっかけは何であれ、いつの間にかふとしたきっかけが自らの「かがわっていききたい」という思いへふくらみ、社会の中の課題に気づき、それを解決するための働きかけとなっている…ボランティア活動の原点をうかがうことができました。



「お話し相手(傾聴)ボランティア養成講座も開講しました

11月末～12月にかけて、南部会場(園部公民館)と北部会場(社協美山支所)で行い、約35名の参加がありました。

1回目/「傾聴って?」～お話しとワーク～

講師: 京都いのちの電話 研修担当主事 中瀬真弓氏

傾聴とは…ゆったりと相手の言葉に耳を傾け、そのあるがままを受け止める。

傾聴のポイントとして、

- ①相手を尊重する ②わがごとくとする
- ③まなざしを向ける ④相手に合わせる ⑤秘密保持

2回目/「認知症について理解しよう」

講師: 美山やすらぎホーム ケアマネージャー 河岸かおり氏

認知症の症状や認知症の方への対応など、お話しとロールプレイを通して理解を深めました。

午後は、「亀岡市訪問ボランティアやよい」の法貴迪余さんをはじめボランティア4名の方にお越しいただき、ボランティア活動の喜びなどを伺いました。続いて、園部町のお話し相手ボランティア井上みよしさん、松尾藤美さんの昨年からの活動についてお話を聞きました。

最近南丹市でも、おひとり暮らしの方などからボランティアに来てほしいという声をよく聞くようになりまし。この研修で学んだことが、これからの地域でのボランティア活動に生きるというですね。



自分自身を見つめよう
「わたしのマップ作り」

福祉でまちづくり事業 「バーベキュー交流会」(9/7)

昨年の「秋の花火を見ませんか～八木町神吉～」の参加者を中心に、府民の森ひよしで交流会を開催しました。

園部高校のボランティアが作業所等へチラシを持って訪問し参加を呼びかけました。当日はあいにくの曇り空でしたが、80名の参加があり楽しいひと時を過ごしました。

初めて参加した学生からは、「緊張や戸惑いで自分から動いたり話しかけたりはできなかった…」との思いや、昨年からの参加者からは、「昨年出会った人が覚えていてくれて、話しかけてもらえてうれしかった。」などの感想を聞くことができました。

だれもが安心して幸せに暮らせる、そんな地域(社会)をみんなで作っていききたいですね。この取り組みは、今後も広げつつ進めていく予定です。



「千と千尋の神隠し」や
「ハウルの動く城」の
主題歌でおなじみの

家族介護者交流事業(10/3)

介護の疲れをリフレッシュ!

“木村弓さんコンサート”

在宅で、毎日介護をされているみなさんの、日ごろの疲れを癒し、心身ともにリフレッシュしていただくため、「家族介護者交流事業」を開催しました。今年は、南丹市国際交流会館で会食し、おいしいごちそうに舌鼓。また、参加者どうし介護のつらさや工夫などを話し合いながら交流しました。

その後、“木村弓さんコンサート”には、南丹市内の共同作業所メンバーの参加もあり、木村弓さんによる優しい歌声とライアー(竖琴:たてごと)の音色で、ゆったりとした時間を過ごすことができました。



南丹市総合防災訓練に参加協力(11/16)

災害救護ボランティアセンターの開設や、ボランティアの受け入れ登録、ボランティア要請の受付、ボランティア派遣調整など本番さながらの訓練を行いました。



また、「園部給食ボランティアあじさいの会」の方々にも協力いただき、炊き出し訓練が行われました。ボランティアのみなさんは、おにぎり500個、味噌汁500食を調理されました。

「災害は忘れたころにやってくる」といいます。これを機会に、地域の防災への取り組みが進むようにしていきたいです。



ボランティアセンター



7月23日・8月6日 男の料理講習会

「食べる」ことは、毎日の「楽しみ」であり、生きていくうえで、欠かすことのできない大切なことです。

そこで今回は、男性の高齢者や家事をされている方、障がいをお持ちの方を対象に、料理講習会を開催しました。給食ボランティア「あじさいの会」のみなさんにご協力いただき、楽しく交流しながら2日間で8種類のメニューを調理しました。

参加者のみなさんからの感想

- 身近な材料で、自分でもやってみようかなと思う事ができました。また機会があれば参加したいと思います。ありがとうございました
- 初めての料理で、まごつきましたが大変楽しく過ごしました。野菜の使い方が勉強になり、大変参考になりました。

★メニュー★

白ごはん
豚肉のショウガ焼き
きゅうりとわかめの酢の物
野菜スープ
牛乳くずもち・肉じゃが
夏野菜の索揚げ・フルーツ寒天



ふれあい亭へのお誘い

<神吉地区>



漫才と歌とリズムで楽しもう!

<南地区 A ブロック>



レクレーションで楽しもう!

<東地区 B ブロック>

八木町内のふれあいネットワーク委員(民生児童委員・福祉委員)が企画し、各10ブロックの趣向を凝らした取り組みが行われました。子供から高齢者まで参加を呼びかけ、人形劇やマジックショー、健康の話やレクリエーションと、会場は温かい笑顔でいっぱいでした。

この事業は、ふれあいネットワーク活動(小地域見守り活動)の一環として、地域の子供から高齢者までを対象に、ブロックごとに年1回開催しています。

平成20年度 第3回家族介護者教室

「認知症介護の悩み、なんでも語り合いませんか!」

～社団法人認知症の人と家族の会京都府支部の方をお招きして～

10月22日(水) 八木町 参加者8名

10月24日(金) 園部町 参加者7名

10月28日(火) 美山町 参加者12名

10月30日(木) 日吉町 参加者4名

自分の介護についてはもちろん、長期にわたり認知症の家族と接する時の、その人にしがわからぬ介護のしんどさ、ショートステイ利用への抵抗感、昼夜逆転している方の介護、離れて住みながらの通い介護など、それぞれの思いを語り合いました。

★参加いただいた方の感想より★

- ◆皆さんのお話を聞かせてもらって大変ななあ!と感じ、介護される人もする人も自分を一番に思うことが大事では...と思いました。
- ◆初めて参加するときは戸惑いもあったけど、同じ悩みを持つてはるんやと思ったら気持ちが楽になりました。
- ◆しゃべっただけで楽になりました。
- ◆今日も明日も同じ介護で、出来る限り怒らず大声出さずと心がけていますが、できなくて自分が悲しいです。
- ◆本当はこんな場に来てくても来れない方々がたくさんおられるような気がしてなりません。
- ◆こうして話を聞かせてもらい、また「きはらな」と思えました。

今後とも毎年このような機会を作っていく予定です。ぜひご参加ください。

園部町と美山町に

「介護者の会」が発足しました

在宅で家族を介護しておられる方で、同じような思いを持った仲間が集い、お互いの経験や思いを語り合い、行政や関係機関のご理解、ご協力を得ながらより良い介護への道筋をさがしたり、お互いの思いを出し合ったりしてリフレッシュしたいとの願いからこの会が発足しました。

美山町では十二月十日(水)に二十一名、園部町では十二月十七日(水)に十二名でスタートしました。

こんな活動をする予定です

☆交流会や学習会

定期的に、介護の経験や普段の思いをもとにした交流、介護サービスやその活用、介護用品の利用などについての学習

☆「介護者の会」ニュースの発行

会員相互の交流や、介護に関する情報の紹介・案内 など

☆年会費 一、二〇〇円

お問い合わせはお気軽に...

南丹地域福祉支援センター 077-777-1100

南丹市社会福祉協議会 077-777-1100

園部支所 077-777-1100

八木支所 077-777-1100

日吉支所 077-777-1100

美山支所 077-777-1100



寄稿

「地域社会の支え合いを」

一 会 員

「地域福祉」は、それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、お互いに協力して地域社会の福祉課題解決に取り組むことだと思います。

「社会福祉法」では、地域住民、社会福祉に関係する者等が相互に協力して地域福祉の推進に努めるよう定められています。福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として日常生活を営み、そして社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう、地域福祉を推進することの重要性が法に明記されたことは、これからの社会福祉の方向性をあらためて示したとも言えます。

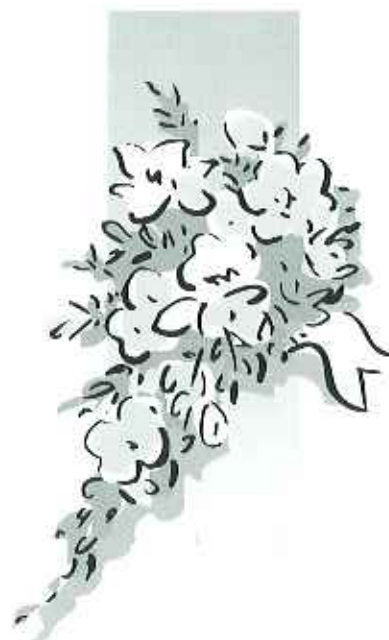
これまで、全国各地の社会福祉協議会は、何らかの支援を必要とする人たちへの見守り、声かけなどの助け合いや、地域社会の共通課題の解決に向けた活動をはじめ、住民参加型の在宅福祉サービス、ボランティア活動等、それぞれの地域に根ざした地域福祉の実践を進めていました。そして、最近では、高齢者とボランティアがともに企画・運営し、楽しい時間を過ごす「ふれあい・いきいきサロン」活動をはじめとする、子育てサロンや障害者サロンなどの「サロン活動」へと、広がりを見せてきました。また、グループホームなど、少人数での生活支援といったサービス形態が定着する等、新しい地域福祉の動きが進みつつあるようです。

私は、福祉委員として「小地域ネットワーク活動」に何年かかかわっているのですが、地域のこうした人と人とのつながりの重要性を痛感しています。

近年、社会・経済状況の大きな変化にともなって、これまでは福祉の対象とはなりづらかった職を失った人や生活に不自由を感じている人たちへの支援、また、ひきこもりや虐待といった新たな社会問題への対応が早急に求められるようになってきました。だからこそ、私たち市民が主体となって、地域社会での支え合い活動の推進がさらに重要になるのではないのでしょうか。これからも、地域の民生児童委員さんらとともに、地域福祉の推進役としての一翼を担っていきたいと考えています。

京都府社会福祉大会 表彰

平成20年 11月28日(金)、第57回京都府社会福祉大会が開催され、南丹市からは次のみなさんが表彰されましたのでご紹介いたします。(順不同、敬称略)



★京都府知事表彰

★社会福祉事業・ボランティア功労者知事表彰

朝子るり子	あけぼの学園
杉森 英樹	あけぼの学園
廣瀬ヨシエ	あけぼの学園
内藤 政博	あけぼの学園
松本 敏子	あけぼの学園
稲荷 清江	あけぼの学園
前田 昌子	あけぼの学園
小寺 淳子	あけぼの学園
ふれあい通信ボランティアはとぽっポ	あけぼの学園
いきいきボランティアサークル	あけぼの学園
バッチワークづくりの会	あけぼの学園

★京都府社会福祉協議会会長表彰

★社会福祉事業特別功労者

石田 知子	あしたーる工房
添田 広美	京都太陽の園
原 久生	こひつじの苑
藤田 幸子	長生園
横山 治代	長生園
福村 貴之	長生園
八木 規子	長生園
安田千恵子	長生園
岩城八重子	長生園

★ボランティア功労者

つくしの会
文覚池公園ボランティア「たんぽぽ」
南地区ふれあいサロン協力者
要約筆記サークルとらいあんぐる
収集ボランティア まごころ
美山こだまグループ
四ツ谷いきいきサロンボランティアグループ
レクレーションボランティア ドレミグループ
下保野田いきいきサロンボランティアグループ

★社会福祉事業協力者

株式会社 親愛
勝山 直
園部ライオンズクラブ
道尾 利之

すべての住民のこころが輝く福祉のまちづくり

お世話になっている 企画小委員の みなさんの紹介

(順不同・敬称略)

園部町

奥村 安治
村田 憲一
中嶋 美好
◎中井 良子
梅木 寧輔
西田カツエ
◎余野 梅乃
栃下 辰夫

日吉町

久世 和夫
○岩田 佳枝
◎宮田 洋二
井尻 富子
勝田 淑子
寺阪 明美
吉野 隆
橋本早百合

八木町

芦田 美子
八木眞沙代
○川勝 益好
廣瀬 滋子
◎下司 文一
滝口 来吉
廣瀬 和子
中川 貞行

美山町

◎松田 響子
小寺 俊彦
○小畑 弘
野谷 静夫
樋口三千男
登尾 久嗣
大堀 俊二
原田 朱美

◎企画小委員会委員長

○ // 副委員長

企画小委員会委員長・副委員長は、企画委員も兼ねてお世話になっています。

合併してから企画委員の皆さん(左欄)を中心に、「地域福祉活動計画」の策定を進めています。

自分達の「地域」が、どうすれば住み続けたい“ふれあいのまち”になるのか、今後社会福祉協議会が何をめざして進むのかを計画としてまとめようというものです。

平成21年の3月に策定し、4月から実際に地域で生かせるよう、現在仕上げの段階です。

職員のプロジェクトチームも発足し、アドバイザーとして大谷大学の志藤修史准教授から助言も頂いています。

5月頃には、市民の皆様のお手元に、ダイジェスト版をお届けする予定です。

南丹市地域福祉活動計画

今年の三月に策定予定です！



編集後記

最近、「老いる」とか「年をとる」ことが話題になりますが、老いることは裏返してみると、本当は成長するのです。

「やめよう」「せやめよう」「いかにん」の、とことこ族は早く老ける。

「何でも見たい」、「聞きたい」、「してみたい」の、「だいたい族」は心も体も若い。いつまでも若くありたいものです。

編集委員

善意のご寄付 ありがとうございました

本所と各支所合わせて

五、五九五、四二〇円

頂戴いたしました。

皆様からいただいた善意を、福祉のために有効に使わせていただきます。(平成二十年七月一日～平成二十一年一月二日)



発行

社会福祉法人
南丹市社会福祉協議会

〒629-0301 南丹市日吉町保野田垣ノ内11番地
☎ 0771-72-3220 ☎ 0771-72-3222